

激動の経営

債務超過に陥った。安中は「あの時ばかりはもう死のうかと思っただ」と苦難を思い返す。信頼していた中国事業責任者と経理担当にうそと不誠実を重ねられ、精神的にも深手を負った。

経理取り戻す

窮地の安中を救ったのは鍛え上げた技術と人との縁だった。モノづくり技術を高く評価されていた安中は取引のある銀行、商工会議所の紹介で複数の金融機関から融資を受け、

社長の安中茂は、中国進出で大きな財務的痛手を負った。現地法人に資金・人員を注入したが見返りはほぼなく、気づけば負債は年商の3倍まで膨らみ、

仲代金属

③

中国から完全撤退



中国からの完全撤退が遅れたら会社の再建は不可能になっていた...と、社長の安中は当時を振り返る（上海工場）

「どうにか急場をしのごうができた」。しかし、融資の返済が始まると再び財務は悪化した。この時も金融機関が返済期間の猶予を与え、仲代金属の存続を助けた。

安中は2013年に経営資源を日本に集中させるため、中国からの完全撤退を決意。自社機械は中国から回収できなかったが「少し遅れたら会社が再建不可能になっていた」

信頼裏切られ 債務超過に

と、すんでの所で判断が間に合った。

さらに今までの「自分分は技術一筋で、財務は他人に任せる」という考えをあらためて経理業務について調査を行い、中国責任者と組んでいた経理担当から経理業務を取り戻した。

中国からの撤退には費用もかかり、司法の場での争いも経験した。リソースを費やした安中は少しでも取り戻そうと裁判に挑んだが、裁判関係者から「あなたは裁判に時間をかけるよりも、持っている優れた技術を磨くほうが有意義だ」と

諭され、あらためて本業に専念する。

バリレスで復活

そして仲代金属は復活を遂げる。リチウムイオン二次電池に用いられるタブリード材のスリット加工技術をさらに発展させた。

中国からの撤退にはすタブリード材のバリ、湾曲を大幅に削減する「バリレス加工技術」を開発。切断技術にも磨きをかけ「鏡面切り」と命名し、人命に関わるため高い安全性が必要な車載用を中心に取引を増やした。中国事業撤退から6年後の19年には財務の健

全化を果たす。

仲代金属が加工するタブリード正極材は国内外の大手自動車メーカーが採用し、「電気自動車（EV）用として今後も需要増を見込む」と安中はさらなる成長戦略を描く。

今後、電池分野は製品への要求が厳しくなる。それでも応え続けることが大切と、1、2回の成功ではなく継続的に成功する技術開発を常に心がける。最終製品の見えない加工業だが、日進月歩の産業・製品に対応する技術もまた、安中の日進月歩の創意工夫で磨かれる。（敬称略）